



JAPAN CHINA Skilled-workers Exchange Center

No.119

[発行] 公益財団法人 日中技能者交流センター
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-6-2
日本教育会館7階
TEL 03-5212-2531 FAX 03-5212-2536

日中技能者交流ニュース

新年のごあいさつ

理事長 人見 一夫



新年あけましておめでとうございます。
会員各位はもとより、関係
団体・組織の皆様には、日頃
当センターの運営につきまし
て、格段のご理解ご協力を賜
り、深く感謝申し上げます。
昨年は大変厳しい一年でし
たが、皆様方のご協力の下、

各種事業を進めることが出来
ました。7月は新しい執行
体制をスタートさせ、10月
は、事務所を財団法人日本教
育会館に移転することが出来
ました。新しい体制、新しい
拠点のもと、今年も精一杯頑
張る決意を固めていけるとこ
ろです。
昨年、尖閣諸島をめぐる
日中間の対立で友好関係が大
きく後退しました。日中政府
間の交渉による一日も早い解
決を願ってやみません。「戦
略的互恵関係の構築」は、両
国民にとって大変大事なこと

であります。私どもは、当セ
ンター設立以来、今日まで築
いてきた中国関係機関との連
携を更に強固なものとし、日
中両国間の友好関係増進に積
極的に寄与する所存です。
昨年12月には、中国国家外
国専門家局より「国際人材交流
サービス国外機構資格証書」
が授与されました。従来の3
事業に加え、今年新たな事
業も推進していく所存です。
事業の拡大に伴い、様々な困
難も予想されますが、皆様と
共に27年目に入った日中技能
者交流センターの歴史を大切
にしながら、役員一同、さ
らなる発展に向けて邁進する
所存ですので、今年も相変わ
らずのご指導、ご鞭撻のほど、
宜しくお願い申し上げます。

第4回 評議員会を開催します

- 3月22日金曜日、13時30分より、当センター会議室にて、第4回評議員会を開催します。
議題は以下の通りです。
(1) 2012年度事業報告
(2) 2013年度事業計画(案)
(3) 2013年度予算(案)
(4) 「理事」の交代選任
(5) 「監事」の交代選任
(6) 「評議員」の交代選任
(7) その他
なお、当日10時00分より、第7回理事会も開催します。

大きく変わります!! センターホームページ



今年2月、当センターのホームページを大幅リニューアルします。この度の改定の為に、プロジェクトチームを編成し、さらにそれを発展させた広報委員会にて検討を重ねてまいりました。まず、ご覧いただいている掲載写真の様に、

デザインを大幅に変えておりますが、「見た目」の改善のみではなく、「必要な情報を必要な時に」をテーマに、訪問者の使いやすさを重視しています。特に、当センターの二大事業である「技能実習生事業」および「日本語教師派遣事業」

は、多くの方が関心をお持ちですので、今回のリニューアル以後も、訪問者の皆様のご意見などを取り入れ、改良を続けていく予定です。
また、既にセンターニュースのリニューアルで始めている、最新の中国社会・経済情報レポートや、日本語教育事情の掲載を、新ホームページにも行う予定です。
その他にも新企画を検討中ではあります。何より、訪問者の皆様が求めるものを提供していきたいと考えております。まずは、皆様からのアクセスをお待ちしています。
なお、HPのアドレスは、変更ありません。
(http://www.jcsec.or.jp/)

研修所だより

日本の交通ルールは複雑!

~交通安全指導を受けました~



四国研修所にて事前講習を受けている、四国37期(上野容子所長、上原和子先生)実習生14名に対する講習の一環として、10月30日、交通安全・防犯講話が行われました。
当日は、研修所内にて30分ほどの講義後、研修所から徒歩10分程度の交差点にて、観音寺警察署員3名、警官1名の指導の下、実地に交通ルールの指導を受けました。日本の交通ルールの複雑さや、左歩行の中国とは逆側の歩行に頭を悩ませつつも、道幅の狭い場所での一列歩行の重要さを学んだり、安全な自転車走行における道路標識確認の大切さを実技指導で身に付けていました。通訳を介してのやや難しい講話でしたが、日本の警察官は親切で真面目だという印象を受けたとのこと。

研修所事前講習

- 中国本邦外講習
★国際交流服務中心・濰坊研修所
12月5日~2013年2月4日
教師1名 実習生17名
2013年1月10日~3月12日
教師1名 実習生14名
★中国職工対外交流中心・即墨研修所
12月19日~2013年2月27日
教師1名 実習生29名
★国内集合講習
★岐阜研修所
第181期 11月20日~12月19日
教師2名 実習生10名

- 第182期 12月4日~2013年1月8日
教師2名 実習生5名
第183期 12月10日~2013年1月18日
教師4名 実習生48名
第184期 2013年1月8日~2月7日
教師2名 実習生10名
★四国研修所
第38期 11月25日~12月25日
教師2名 実習生15名

あけまして おめでとうございます
本年も よろしくお願い申し上げます



役職員一同

第18回中国共産党大会報告の印象

特定非営利活動法人日中産学官交流機構

特別研究員 田中 修

2012年11月8-14日、第18回中国共産党大会が開催され、胡錦濤総書記は8日、最後の政治活動報告を行った。また、大会終了後開催された党1中全会は、新しい指導部を選出した。今回は、この大会報告の印象を何点か述べてみたい。

第1に、科学的発展観が、マルクスレーニン主義・毛沢東思想・鄧小平理論・「3つの代表」重要思想とともに、党が長期に堅持しなければならぬ指導思想とされた。このうち、鄧小平理論・「3つの代表」・科学的発展観は、「中国の特色ある社会主義」として一括され、これこそが中国の発展・進歩の根本的な方向であるとされている。

科学的発展とは、①経済社会の発展を推進し、②人間本位を中核とし、③全面性・協調性・持続可能性を有し、④都市・農村の発展、経済・社会の発展、人と自然の調和のとれた発展、国内発展と対外開放を統一的に企画し、各方面を併せ考慮するような発展である。

第2に、これまでの経済建設・政治建設・文化建設・社会建設に、新たに「生態文明建設」が追加された。生態文明建設では、資源節約と環境保護が基本国策とされ、エネルギー・水・土地の消耗程度を大幅に引き下げ、利用効率・

効果を高めることが強調されているほか、この部分で「海洋強国の建設」がうたわれている。

第5に、小康社会を全面的に実現するには、「時機を失さず重要分野の改革を深化させ、科学的発展を妨害する全ての思想観念と体制メカニズムの弊害を断固として除去しなければならぬ」とされている。

現在、改革は最後の岩盤にぶつかっており、既得権益層の激しい抵抗に遭い停滞している。次期指導部で改革が進まなければ、中国経済は「中等所得の罠」に陥ってしまうとの危機感が背後にあるのである。

しかし、今回決まった政治局常務委員の顔ぶれは、むしろ既得権益層の代表が多く、改革が大胆に進むかどうかは疑問である。特に問題なのは、報告の中で「国有経済の活力・コントロール力・影響力を不断に増強する」とされていることである。

リーマン・ショックを契機とした大型景気対策により、国有企業に大量の資金が流れ、「国進民退」と呼ばれるような状況が出現し、国有企業を中心とした産業の再編も進められている。他方で、国有独占企業の弊害も指摘されている。しかし報告では、国有企業改革を更に力強く推し進める姿勢が見受けられない。

改革については、今後2013年秋の党3中全会に向けて、習近平指導部が大胆なプランを打ち出せるかどうか、1つの試金石となる。

田中 修 (たなか おさむ) 1968年東京生まれ。1992年東京大学法学部卒業、大蔵省入省。2011年2015年の中国経済12ヵ年計画を「読む」(蒼書社)、「検証 現代中国の経済政策決定―近づく改革開放路線の臨界点―」(日本経済新聞出版社、2008年)、「太平洋賞特別賞受賞」(中国第10次5ヵ年計画―中国経済をどう読むか?) (蒼書社)、「中国は、いま」(共著、岩波新書)、「国際金融危機後の中国経済」(共著、勁草書房)、「中国経済のマクロ分析」(共著、日本経済新聞出版社)、「中国の経済構造改革」(共著、日本経済新聞出版社) など著書多数。

日本語教育・再考 (第二課)

技能実習生や働く外国人に対する日本語指導を考える (その2) ~周囲を巻き込むコミュニケーション力をつける~

公益社団法人 国際日本語普及協会 新野 佳子

技能実習生や働く外国人は、「病状が伝えられない、何を注意されているか分からない、叱られた時に説明できない、ホームシックになっても相談できない」などのストレスを常に抱えています。また「指示が伝わらない、報連相が十分に行われない」など、企業内コミュニケーション不足は、トラブルやミス、仕事の能率低下を招きますから、日本語力アップは、学習者、企業双方にとって大きな課題です。

日本語上達の秘訣は、職場や日常生活の中で、実際に本物のコミュニケーションを数多く重ねることですが、コミュニケーションは文法や読解のように独習できませんし、限られた時間数の教室授業だけでは足りません。そこで、教室外の環境も積極的に活用し、周りの日本人を巻き込んでいくことが必要になります。間違いを恐れず自分から積極的に話しかけ、周りを巻き込める学習者もいますが、相手の日本人が嫌そうな顔をしたら、二度と話しかけられないという学習者も少なくないでしょう。日本人も外国人に配慮した話し方で、上手に会話をリードしてくれる人ばかりとは限りませんから、コミュニケーションを続けていくためには、学習者の方からも、

周囲が「(外国人と)話し続けたい、また話したい」と思うような日本語で働きかけることが重要なのです。つまり日本語教師には「学習者が周囲と良好な人間関係を築くための日本語指導」という視点も求められるということです。

一般的に日本人は、外国人の助詞の間違いや、たどたどしい日本語は許せても、態度や礼儀、マナーが悪いのには甘くない人が多いのではないのでしょうか。言葉は間違えても意味が伝わればいいのですが、こうしたもので感情を害すと、その後の人間関係に影響してしまいます。コミュニケーション成功の鍵は、「感じが良く好感もてる」こと。これに成功できれば、シャイな外国人でも話しかける勇気が続きます。

TPOに合わせた挨拶、適切なことば使い、礼を述べる、謝罪するなど、周りの人間と上手につき合うための日本語は、言葉だけを学ぶものではありません。「相手との距離の取り方、声のかけ方やタイミング、表情、身振り、お辞儀の角度(軽い会釈から深いお詫びまで様々)や頭を起こすタイミング」など、非言語を含め総合的に学びます。これらの学習には、お互いに観察しながら話し合う、自国のジェスチャーと比べるなどの

活動ができますし、悪い言葉使いやマナーなどは、(学習者ではなく)教師が演技してみせ、学習者の気づきを促すといいと思います。また、個々の表現だけでなく談話形式でも学びます。分からない言葉一つ聞くのでも、いきなり「これは何ですか」ではなく、「すみません、ちょっといいですか」などの切り出しから始まり、最後は「ありがとうございました」とお礼で会話が終わる流れを、動作なども含めて練習します。自明のようですが、これらは互いの文化を尊重し、文化的な違いを理解した上での練習だということです。なぜ頭を下げるのか、なぜ悪くないのに謝らなければならないのかといった疑問の解消や、地域の習慣や職場のルールを納得して守っていくためにも大切だと思います。挨拶を交わす関係になったら、天気、体調、近況、ニュースなどの話題で、もう少し会話を発展させます。「おかげさまで」「せっかくなのですが」など、人間関係をほぐす便利な言葉が使えるようになるといいですね。

(外国人従業員は)いつも仲間同士で話しているという日本人の

不満も聞かれますが、昼食や休憩時に、日本人と雑談できるようになりたいという外国人は多いのです。面白いテレビ番組や買い物情報を教えてもらったり、日頃の買い物や飲み会に誘ってもらったり、朝会、社内のスポーツ大会や小旅行、地域の活動や文化交流に参加したりと、行動が発展すればするほど、コミュニケーション力もつき、生活も充実します。周りを巻き込める学習者を育て、教室外の世界へ学習者の背中をそっと押してあげるのも、日本語教師の役割ではないでしょうか。

当協会では現場のニーズに合わせ、技能実習生や働く外国人のためのテキスト『あたらしいじっせんにほんご』を開発しました。各国語翻訳、れんしゅうちょう、かなワークブックなど、副教材も充実しています。詳細は、当協会HP (<http://www.ajait.org>) をご覧ください。

- 『あたらしいじっせん日本語』 (財)国際研修協力機構<JITCO>監修 2,520円(本体2,400円)
- 翻訳各国語版(英語版、中国語版、インドネシア語版、ベトナム語版) 各1,575円(本体1,500円)
- 補助教材 『かなワークブック』 525円(本体 500円) 『れんしゅうちょう』 1,575円(本体1,500円)

